

## 府内市町村の動き

### 豊中市

■豊中市は「アスベスト（石綿）の基礎知識」という冊子を作成した。

これは、市民から寄せられたアスベストに対する問い合わせを参考に、健康被害や補償制度、相談窓口などの情報をイラストや写真を使用し、市民向けにわかりやすく説明したもの。同市環境政策室で希望者に無料配布する。

市ではこの取組を通じ、市民のアスベストに対する不安を取り除きたい考え。



### 枚方市

■枚方市は、市立中央図書館に「平和資料室」を開設した。



同市は、これまでも市独自に制定した「平和の日」である3月1日の前後や、8月に戦争を伝える企画展などを開催していたが、同室の設置により、年間を通して戦争と平和を考える材料を提供することができるようになった。

同室で展示される資料は、市民から寄贈を受けた召集令状（赤紙）や軍服など、戦争に関する品々で、市ではこの取組を通じ、戦争の悲惨さを再認識し、戦争と平和について次世代に伝えていきたい考え。

### 羽曳野市

■羽曳野市に来年オープンする「しらとりの郷・羽曳野」が、国土交通省の道の駅に登録された。

これは、同市と地元商工会等が協働して取り組むもので、とれたて野菜や加工品など地元の特産品を販売する施設や、芝生で休憩したり、バーベキューを楽しんだりできる野外活動広場などを設ける。

市ではこの取組を通じ、観光客の増加やまちのPRにつなげたい考え。

### 熊取町

■熊取町は、「くまとり太極拳プロジェクト」をスタートした。

同町は、全国でも有数の太極拳が盛んなまちで、今回の取組は、太極拳を通してまちの魅力を国内外にアピールするもの。

最初の取組として、町民の有志で構成された太極拳研究会と中国・天津から修学旅行で訪れる中学生とで演舞の交流会などを行った。

町では今後、商工会とも連携し、住民の間で定着してきた太極拳を生かした地域ブランドづくりを検討するなど、ユニークなまちづくりを進めていきたい考え。

## 全国の市町村の動き

### 静岡県伊東市

- 伊東市は、職員が独自の視点で市をPRするキャッチコピーを名刺に記載するという取組を始めた。

市では今年度から職員が自ら考えた改革を提案する「私の一改革運動」を進めており、今回の取組はその一環。

職員のキャッチコピーは「自然でやすらぎ、温泉でいきいき、伊東のまち」（観光経済部）、「医療と安らぎのまちをつくります」（保健福祉部）など、所属部署の役割を意識したものが多い。

市ではこの取組を通じ、職員の政策に対する意識改革を図るとともに、市の施策のPRなど積極的な情報発信を行っていく考え。

### 広島県呉市

- 呉市は、シティセールス推進事業を始めた。

これは、同市の魅力を改めて分析、再確認を行い、「潜水艦が見える街」や「肉じゃが発祥の地」といった自慢を「シティブランド」として確立させ、全国に発信していくもので、大手広告代理店のノウハウを活用する。

取組内容は、市民や観光客を対象としたアンケート調査をはじめ、他都市と比べた市の優位性の分析及び、その結果を元にしたロゴやキャッチコピーの作成、具体的なPR方法の提案などで、市ではこの取組を通じ、観光や企業誘致、定住促進につなげたい考え。

### 愛媛県四国中央市

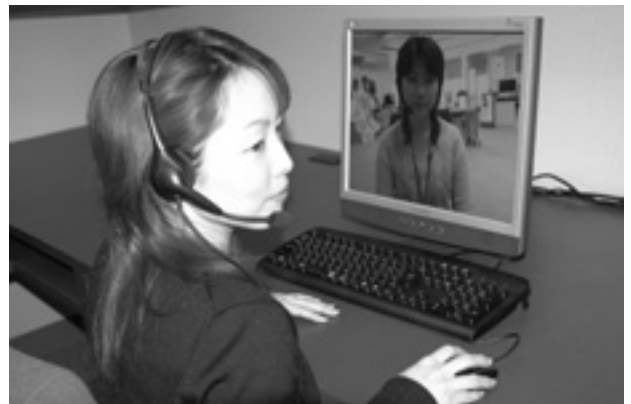
- 四国中央市は、「テレビ窓口システム」を開始し

た。

これは、各支所や本庁の窓口センターを訪れた住民が、テレビ電話を使うことで、市役所の各担当者とその場にいながら相談や問い合わせを行うことができるもの。

端末で会話できる先は市民課、国民年金課、市民税課など21部署。

市ではこの取組を通じ、ワンストップサービスの徹底や、地域間の行政サービス格差を是正したい考え。



### 新潟県長岡市

- 長岡市は、「中越市民防災安全大学」という講座を開講した。

これは、同市で起きた震災や水害を教訓に、地域の防災リーダーを育成するもので、地元大学や全国の防災専門家らを講師に招く。

同講座は、5ヶ月で26講座を開き、運営には、市と地元大学などが設立した社団法人「中越防災安全推進機構」が当たる。修了者は、市から「中越市民防災安全士」に認定され、地域の自主防災組織のリーダーとして、他の修了者とネットワーク組織をつくりながら、防災講習会やボランティア活動などで、習得した知識や技術を活かして活動してもらう。

市では、この取組を通じ、市全体の防災力の底上げを図りたい考え。